

2020年9月9日(水)

老球の細道561号

スキル(技術)の習得・・・「量は質を作る」

会津バスケットボール協会 室井 富仁

好きなテレビ番組にNHK・BSで放映される『英雄たちの選択』がある。先日、織田信長と伊賀忍者達の戦いを扱った内容が放映された。世にいう「天正伊賀の乱」である。織田信長が天下統一を進めるうえで重要な歴史事件であったことがわかった。1576年に「第一次天正伊賀の乱」が起こり、織田信長の次男信雄が勝手に伊賀を攻めるが敗戦。そして1581年に「第二次天正伊賀の乱」が起こる。今度は信長自身が蒲生氏郷等名だたる武将を引き連れ総勢10万人ともいわれる大軍勢で9千人の伊賀忍者達を制圧した。

この放送の中で忍者の日常生活を知った。少数の人数で織田方の大軍勢に立ち向かえたのは平素からの軍事訓練にあった。午前中は各々農作業の仕事をし、午後になると皆集まって武術の訓練に勤しみ、たくさんのスキル(忍術)を習得していたのである。

翌日朝日新聞には体操の内村航平の記事が掲載されていた。現代の忍者内村は習得した体操の技が合計「496」あり、関係者の度肝を抜いたという。現在国際体操連盟が認めている男子体操の技の数は全部で「832」内村はその約6割を習得している。体操競技は、跳馬1技、ゆか、あん馬、吊り輪、平行棒、鉄棒はそれぞれ10技で構成されている。6種目で51技あればOKだ。現在世界のトップレベルでも300～400技しかできないので内村の技習得レベルは驚異的だと言われる。

内村の超人ぶりを示す、25歳の時に語った言葉がある。

「高校生の頃、がんばれば空を飛べると思ったことがある。一つクリアすると、その次が見える。枝分かれして、技の選択枝がどんどん増えた。だから空だって飛べるんじゃないかと」「新しくやりたい技をイメージして練習で試す。小学生の頃からその繰り返し。だから、イメージしたことをすぐに体で表現するのは人よりうまいと思う」

今まで講習会等で多くの子どもたちに色々なスキル(技術)を教えてきた。数えたことはないが、バスケットボールのスキルは体操の比ではないくらい多いと思う。スキルというのはゲーム、試合で使えるようになって初めて身についたとなる。しかし、講習会で指導したスキルをすぐにゲームで使おうとする子どもたちは少ない。失敗するのが怖いのか、失敗することでコーチから叱られるのが怖いのかは定かではないが。

バスケットボールにおいても、実際試合で使うスキルはそれほど多くはないと思う。しかし、10しかないスキルの引き出しから1つ使うのと、100ある中から1つ使うのでは同じ1つかもしれないが、そのスキルの精度には格段の差が出てくるのではないだろうか。

昔シュワルツネッカー主演の映画『ゴリラ』を観た。誘拐された娘を助け出すためにシュワちゃん一人で悪の組織に乗りこむ。携行した武器がバズーカ砲、機関銃、ライフル、ピストル、手りゅう弾等。色々な種類の武器を持つことで、どんな相手にも、想定外の状況にでも安心して立ち向かえる。たくさんのスキルを身につけるとはそういうことか。